

2 鹿児島県育成新品種「しまあかり」現地適合性の検討

1 課題を取り上げた理由及び目的

ジャガイモシストセンチュウ（Gr）抵抗性品種への転換は、安定的な種子確保のために必至の課題であり、本県育成の Gr 抵抗性品種「しまあかり」について、産地導入の可否について検討中である。本地域では主に、11月中旬頃までの植付けで長崎県産冷蔵種子、11月中旬以降の植付けで北海道産無冷種子が利用される。これまでの試験の結果から、北海道産無冷種子の11月下旬以降植付けでは、慣行品種「ニシユタカ」と同等の収量性を得られることが明らかになった。そこで本試験では、島内全域で両品種の生育及び収量性を検討し、産地への適合性を評価する。

2 実証の概要

(1) 設置場所 徳之島町5か所、天城町5か所、伊仙町6か所

(2) 実証期間 令和6年11月～令和7年3月

(3) 供試作物 ばれいしょ

(4) 耕種概要

ア 試験区の面積 100～500 m²/1か所

イ 植付日 令和6年11月29日～12月7日

ウ 栽植距離 一条植：株間 13～15 cm，畝間 60～80 cm
二条植：株間 18～25 cm，畝間 110～120 cm

エ 施肥 農家慣行（N：8.4～34）

オ 収穫日 令和7年3月20日～4月8日（生育日数：98～118日）

(5) 試験区の構成

試験区名	品種名	種子の由来
試験	しまあかり	北海道産（無冷）
対照	ニシユタカ	北海道産（無冷）

(6) 調査方法

各区の畝内に、長さ2mの調査区画を2か所設け、下記の調査を実施した。

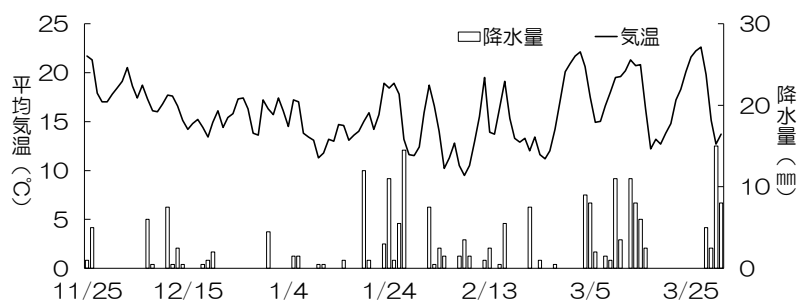
ア 出芽率

植付け約30日後及び60日後、収穫直前に出芽株数を調査し、次式により出芽率を算出した。【出芽率＝出芽株数／植付け株数×100】

イ 収量調査

令和7年3月18日及び24日に、調査区画内の全ての塊茎を収穫した。3月25日に、農業開発総合センター徳之島支場内のハウス内で、重量及び品質を調査した。品質については、裂開、変形、二次肥大、そうか・粉状そうか病、腐敗の有無について目視で判定した。なお、そうか・粉状そうか病については、規格外品に該当する塊茎を被害ありとして計数した。

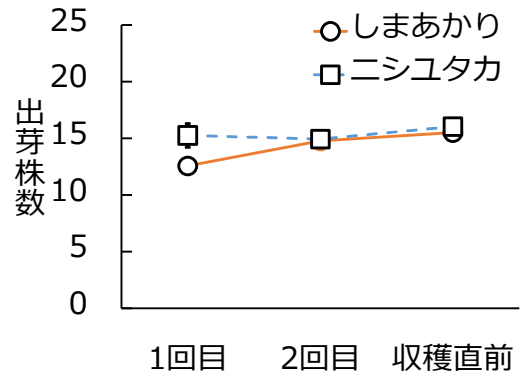
(7) 試験期間中の気象概況（伊仙町アメダスデータ）



3 調査結果

(1) 出芽率

1回目（植付け約30日後）調査における「しまあかり」の出芽株数は、「ニシユタカ」よりやや少なかったものの、2回目（植付け約60日後）の調査以降は同等程度で推移した（図1）。



(2) 株あたり茎数及びいも個数

「しまあかり」は「ニシユタカ」より、1株あたりの茎数及びいも個数が多かった（図2）。

図1 出芽株数の推移

注1) エラーバーはSE(標準誤差)
注2) 1回目:n=16, 2回目:n=15, 収穫直前:n=14

(3) 規格品いも（健全いも）個数及び一個重

規格品いも個数及び重量は両品種とも同等であった。しかしながら、それぞれ総個数に占めるM及びL規格品の割合は「ニシユタカ」36%に対し、「しまあかり」は43%とやや小玉傾向であったため、一個重はやや軽くなった（図3）。

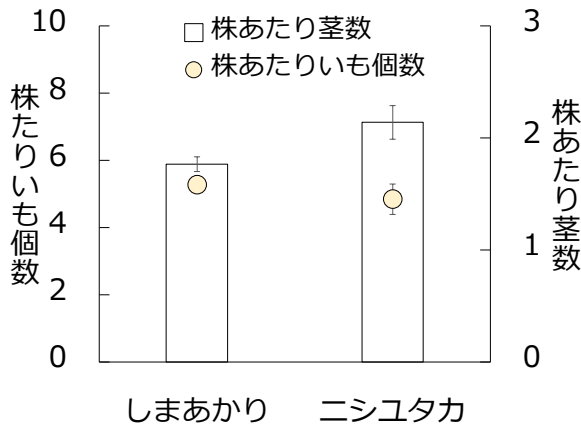


図2 株あたり茎数及びいも個数

注1) 数値は14人の平均値
注2) エラーバーは標準誤差(SE)

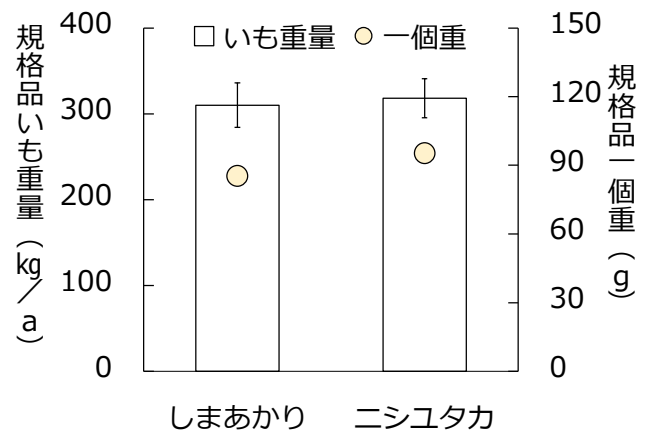


図3 規格品いも重量及び規格品一個重

注1) 数値は15人の平均値
注2) エラーバーは標準誤差(SE)

(4) 規格外いも個数及び重量

規格外いもの発生率は個数、重量ともに両品種ともに数%程度であり、大きな差は認められなかった。しかしながら、「しまあかり」のそうか病・粉状そうか病の発生率は「ニシユタカ」よりやや低い結果となった（データ略）。

4 考察

11月下旬以降の植付けにおいて、「しまあかり」は「ニシユタカ」と同等の出芽率及び収量性を示し、本産地に適合する品種であると考えられた。また、本試験では両品種とも概ね同日に収穫されており、「しまあかり」は「ニシユタカ」よりL~M規格が多かったことから、生育期間を延長することでさらなる増収が期待される。

5 残された課題

「しまあかり」収穫日の差異が収量及び品質に与える影響の評価

6 実施者 池之上 祐紀（協力：県園芸振興協議会徳之島支部）